

昭島市教育委員会 殿

学校名 昭島市立武蔵野小学校

校長名 大河原 博 公印

令和8年度教育課程について (届)

このことについて、昭島市立学校の管理運営に関する規則に基づき下記のとおりお届けします。
記

1 教育目標

(1) 学校の教育目標 (重視する「育成を目指す資質・能力」)

知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成を図るとともに、学校・家庭・地域と密接に連携する。ふるさと昭島の自然や文化を愛し、社会に主体的に貢献できる「たくましい昭島っ子」の育成を目指すために、次の三点を教育目標とする。

○しっかり考える子・・・よく見て、よく聞き、よく考える力を培い、思考力・判断力・表現力を身に付けた子供
⇒「問題解決力」

○心やさしい子・・・生命の尊さと人権尊重の精神を学び、感性あふれる豊かな心をもつ子供 ⇒「人間関係形成力」

○つよく元気な子・・・健康、安全に心を配り、すすんで心と体を鍛えることができる子供 ⇒「体力・活力」

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

ア しっかり考える子「問題解決力」を育成するために

(ア) 「ICT活用マニュアル」に基づき情報活用能力の育成をめざし、「個別最適な学び」と主体的・対話的で深い学びの実現を図る。

(イ) 授業力向上アドバイザー事業で得た学校組織全体の授業改善能力の向上につなげるために、学力調査の分析に基づいた授業改善推進プランを作成に取り組む。

思考力、判断力、児童がすすんで課題に取り組んだり、振り返ったりすることで、主体的なメタ認知能力と自己調整力の向上を図る。

(ウ) 少人数指導や補習教室等で知識・技能の確実な習得を図る。その上で、基礎学力定着のための基本演習の時間の確保や、問題数や練習数を増やし、朝の時間や家庭での連携した児童の学習習慣の確立をめざす。

イ 心やさしい子「人間関係形成力」を育成するために

(ア) 教育活動全体を通じた人権教育を推進し、自他ともに尊重する豊かな人間性を育む。その際、体験的な学習を充実させ、多様な価値観を認め尊重する異学年交流の機会を計画的に設定することで、自己実現と自己受容を高め、児童が個々のよさを発揮できるようにする。

(イ) 道徳を要とする道徳教育を充実し、他者理解や思いやりの心情等の道徳性を養う。また、様々な集団活動に自主的、実践的、創造的に取り組み、多様性と開放性の良さや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題をよりよく解決する活動の充実を図る。

(ウ) 東京都の「いじめ総合対策」を踏まえた、学校いじめ対策委員会を月に1回以上開催する。また、「いじめ総合対策」の冊子を活用し、いじめの早期発見、早期対応に努め、様々な課題を抱える児童及び保護者への教育相談体制の充実を図る。

ウ つよく元気な子「体力・活力」を育成するために

(ア) 東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査の結果分析及び「元気アップガイドブック」の活用や体力向上週間の取組等、児童・生徒が健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現に向け基礎的な体力の育成・向上を図る。

(イ) 家庭と連携して、毎学期の初め及び長期休業日後に「すまいるカード」に取り組み「グッドモーニング60分」の推進を図ることで、心身の健康と幸福感を実感することができるための指導の充実を図る。

(ウ) 基本的な知識の習得及び命の大切さや自己の生き方を考えるスキルや思考力を育てたり、健康と命の大切さに主体的に考える児童の育成を図ったりし、健康に関する指導を充実させる。

(エ) 栄養士と連携し、掲示物や動画等を活用することで食に関する正しい知識や望ましい食習慣の育成を図る。アレルギー研修を年度初めに行うとともに、アレルギー疾患対応マニュアルを全教職員に周知したり定期的を確認したりすることで、食の安全を確保する。

エ 学校の教育目標の達成に向けたその他の事項

(ア) 特別な支援が必要な児童への指導の充実を図り、合理的配慮を提供する。その際、学校生活支援シート及び連携型個別指導計画を基に、支援体制を整備する。また、「昭島市立学校教育ユニバーサルデザイン」に基づき、やさしい学校・学級の実現を図る。

(イ) 昭島市「学校の働き方改革の推進に向けた実行プログラム(令和8年3月)」を遵守しながら、本校に合った働き方改革を推進しながら合理性・効率性が高い組織にする。

(ウ) 学校・家庭・地域の連携・支援体制の確立を基に、持続可能な社会づくりに必要な資質・能力の育成を図り、その教育活動や児童の様子を学校だよりやホームページなどを通じて積極的に発信する。

(エ) キャリア形成と自己実現に向け、キャリア・パスポートの充実を図り、教育活動全体を通じた組織的・系統的なキャリア教育を実現する。

(オ) 教育目標に向かって、PDCAと職層制度を活用した校務分掌の運営、担当者の創意・工夫のある起案を実施する。教員の「抱え込み」を排除し、チームによる問題解決を行い、教育活動の活性化、指導の充実を図る。

(カ) 地域学校協働活動実施校としての活動を円滑にスタートさせ、更に、コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の充実を図る。多様な価値観・多様な考え方やふれ合う機会を設ける。家庭・地域の声を生かし、つながりと信頼の基盤の教育活動を展開していくことに努める。

(キ) 義務教育を円滑にスタートさせるため就学前教育(幼・保)との連携を図り、義務教育9年間を見通し小・中学校の連携を更に充実させる。